

## The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Paicifichem2015)に参加して

2015 年 12 月 15 日～20 日までの期間、アメリカ合衆国・ハワイ州オアフ島にて、the 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (環太平洋国際会議: Paicifichem2015) が開催されました。本会議は約 5 年ごとに開催されている化学および化学工業に関わる分野の国際会議です。発表件数は増加傾向にあり、今回の会議では 18,000 件以上の研究発表が行われました。本会議のプログラムは多数のシンポジウムが連結したような形式となっており、多数のセッションが同時に進行する形式となっています。メイン会場となったハワイコンベンションセンターはとて大きな会場でしたが、この会場に加えてシェラトンワイキキ、ヒルトンハワイアンビレッジなどワイキキ周辺ホテルも会場となっています。物性物理化学研究室からは、Functional Molecular Materials and Devices というセッションに中澤康浩教授、山下智史助教、博士後期課程の吉元諒君の 3 人が参加し、1 件の口頭発表と 2 件のポスター発表を行いました。分子性導体の物性に焦点を当てたセッションでしたが、磁気物性や超伝導、電界効果トランジスタから分子形状を利用した結晶構造の制御など多種多様な内容の発表が行われ、活発な議論を交わしました。

本会議の会場にはハワイコンベンションセンターがメイン会場として使用され、私たちが参加したセッションも口頭発表・ポスター発表ともに同センターで行われました。コンベンションセンターの規模はとて大きく、特に 1 階に設けられたポスターセッション会場の大きさと、同時に発表された他セッションも含んだポスター発表の数は圧巻でした。私たちが参加したセッションでは、ちょうどポスターボードの中央の広い通路をまたぐような配置であったため、ポスター間を移動するのが大変でした。しかし、向かい合ったポスターボードの列の感覚も広く、発表者の声が聞き取りやすいため、集中して議論ができる環境でした。口頭発表会場周辺はとて広いスペースとなっており、ところどころのカフェも設置されており、口頭発表の邪魔にならずに意見交換が可能でした。しかし、食事は会場内では提供されなかったため、会場外で食事をとる必要がありました。コンベンションセンターはオアフ島で有名なアラモアナショッピングセンターの近くにあったため、ショッピングセンターのフードコートや周辺の飲食店などで昼食をとることが可能で、実際そこで他分野の研究者と出会うこともありました。ホテルに関しては、アラモアナショッピングセンターからワイキキビーチ周辺であり、会場ホテル間の移動にはバスが手配されていました。私たちはワイキキ周辺のホテルに宿泊しておりましたが、朝の時間帯は交通渋滞に加え、移動する人の数の多さも相まって、なかなかバスに乗れないということもありました。しかし、ハワイの治安は良く、ワイキキ周辺ホテルからおおよそ徒歩 15 分程度で移動することもできたため、セッションに間に合わなそうときは徒歩で移動したりもしました。ワイキキ周辺は観光地でもあるため、半分観光のような気持ちで会場まで移動できたことはハワイならではの思い出です。

大規模な国際会議でしたが、セッション自体は前述のように集中したシンポジウム形式であったため、専門分野が近い分野の研究者も多く、ポスターセッションや昼食での移動中などに深い議論ができました。また、シンポジウム外でも多数の研究者と交流が可能で、普段参加している学会ではあまり会う機会のない研究者とも会えました。このような意味では、多数のシンポジウムを連結させた形式というものはさまざまな意味で刺激になったといえます。また、周辺施設の充実もあり、打ち解けた雰囲気でのディスカッションや会議の時間に余裕があるということは、研究者間の交流

という意味で大変良かったと思います。その一方で、発表内容についてはどの発表も興味深く、また、アイデア・考察ともに高いレベルの発表ばかりで、次回の会議にも参加できるような高いレベルの研究成果を出さなければと感じました。

(山下智史)



会場の写真(左:口頭講演会場への入り口, 右:ポスター会場入り口)